

文法 ～ 文の構造 ～

今回の学習のポイント

- ① 「言葉の単位」とは？
- ② 単語の種類を理解しよう

「言葉の単位」とは？

「文を構成」する要素として基本となるものが、「主語」「述語」であることは前回学習しました。それ以外に、主語や述語を説明する「修飾語」も学習しました。それでは、「文を構成」する単位にはどのようなものがあるのでしょうか。

文章＝小説や論文、手紙など一つのまとまりのある内容を書き表したものの。文章はふつういくつかの文が集まってできている。

文＝文章の「。」(句点)から「。」までの一続きの言葉の単位。文は基本的な言葉の単位。

文節＝文をさらに区切るとき、意味が通じて、読んでも不自然にならない程度に文を細かく区切ったまとまり。

単語＝文節を細かく分けて、これ以上分けると意味がなくなるか、言葉として働かなるところまで文を区切ったもの。言葉の最小単位。

文節は、文を組み立てる最小の単位です。他の文節との関係で、「主語」「述語」「修飾語」「独立語」「接続語」に分類されます。

【発展】

「主語」「述語」「修飾語」は前回学習したので、ここでは、「独立語」と「接続語」について学習しましょう。

独立語＝感動・呼びかけ・応答などを表す語句で、「主語」「述語」「修飾語」「接続語」のどれにもならず、他の文節とは直接関係がないもの。

国語監修・執筆

鈴木周太

〔例〕
 感動……ああ。まあ。
 呼びかけ……ねえ。おい。
 応答……はい。うん。いいえ。

接続語前後の文や語句をつなぐ。あるいは、文頭で、前文と文をつなぐなどの働きをする語句。

〔例〕
 だから、しかし、あるいは、また など。

単語の種類を理解しよう

文を単語に分けたとき、一単語で一文節を作ることができ、それだけで意味のわかる単語を「自立語」と言います。これに対して、自立語の後について、自立語と一緒になければ文節を作ることができない単語を「付属語」と言います。

自立語と付属語の構成例

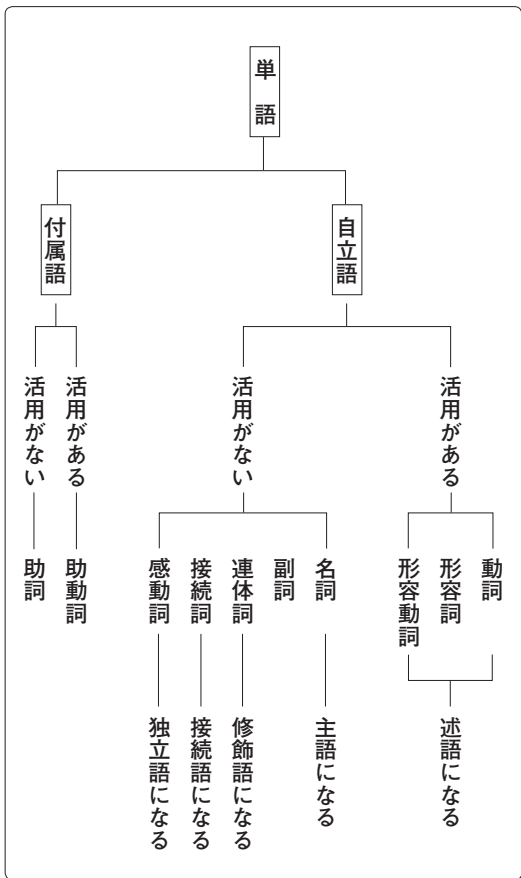
公園で / 私は / パンを / 食べる。 (文節に分けた場合)

公園 / で / 私 / は / パン / を / 食べる。 (単語で分けた場合)

自立語……公園、私、パン、食べる

付属語……で、は、を

単語は、自立語か付属語か、あるいは、単語の語尾を変化(活用)させることができるか、できないかなどによってグループ分けを行うことができます。さらに、他の文法上の性質から細かく分けることができます。このように文法上の性質から分類した単語のグループを品詞と言い、後に示すように十種類があります。(ただし、研究者によって種類が変わる場合もあります。)



まとめ

日常会話では文法を意識することはほとんどありません。しかし、文法を学ぶことでふだんは意識しないで用いている「言葉」に意識を向けることになります。言葉の法則性を認識し学ぶことで、文章や会話の表現や理解の技術向上につながっていきます。

私たちは言葉を用いることで、ものを考えたり、考えたことを人に伝えたりしています。文法を学ぶ、つまり、言葉に意識を向けるということは、私たちが生活する社会について、もっとよく知ることにもつながっているのです。



出演（左から）：金田一秀穂さん、滝沢カレンさん、
オウムの声役の土屋伸之（ナイツ）さん